



# 自由鍛造によるフォーク製造 国内トップシェア



## 芙蓉工業株式会社

### 中・大型フォークの トップメーカー

鍛造とは、鉄を焼いて、叩いて、鍛え、形を作っていく作業のことであり、中でも、「型」を使わずに行う鍛造を自由鍛造という。芙蓉工業はこの自由鍛造技術でシェアを拡大した。

同社は現在日本に4社あるフォークリフトの爪（フォーク）を製造する会社の一つ。創業は約70年前。戦後の復興期に生産を始め、独自の自由鍛造技術を駆使して、主に中・大型規格のフォークを製造し続け、その領域では現在、国内で約55%のシェアを占めている。

フォークの国内販売市場は、メーカーへ販売する純正ルートと、メーカーを通さないアフタールートに大別される。同社が特に力を入れているのがアフタールートで、多品種・少ロットに対応し、加工・組立まで手がける。同社のアフター製品は、今では大手リフトメーカー2社が、第二純正として公認。2社のアフターシェアは約90%となる。

### 海外社との連携で 月産約1000本

同社は、フォークリフト業界全体の成長傾向という追い風にも乗って、ここ数年順調に売上を伸ばしてきた。しかし、成長の要因はそれだけではない。田中義治社長は語る。「当社は現在、月に約1000本のフォークを出荷していますが、敷地や人員の問題等、国内だけでは対応は不可能です。そのため生産はカスケード社（カナダ）、大連鍛造（中国）と提携し、最終的な調整を自社工場で行っています。つまり、相手の増産要求量に応える努力を続けた結果が今につながっているのです」。

### 若い人材と ベテラン技術者の融合

「鍛造は、道具や機械を使うタイミング、鉄の焼ける色の見極め等、一朝一夕に身につくものではありません。ですから、若い人をどんどん採用して、早いうちから教育していくことが大切なのです」と、田中社長は説明する。

とにかく若い社員に経験を積みませ、ベテランの技能者は監督・コーチ役に徹し、肝心なときには助け船を出す。そうした地道な方法により、独自技術の維持、および向上に努めている。

このような努力により躍進を続ける同社だが、好調な業績を社員に還元することも忘れない。「私の考え方は極めてシンプルです。『なぜ自分たちはこれをやらなければならないか』

のか」。社員一人ひとりがそのことを理解して頑張れば、それが会社の信用、売上につながり、自分たちの給料やボーナスに反映される。ものづくりは誤魔化しがききません。日々の研鑽を積むことだけが、人、そして会社を成長させるのです」。

フォークリフト需要は世界的に伸びており、同社も輸出中心へと新たな展開を見せている。優れた技術を絶やさず、若手社員がいきいきと働く同社の存在価値は、世界市場でますます大きなものとなっている。

### 主な事業内容

産業車両用部品（フォーク）・製品  
関連部品等  
製造・販売



田中義治さん  
代表取締役

芙蓉工業株式会社

Company  
Profile

住所 / 〒561-0821  
大阪府豊中市日出町2-1-10  
創業 / 昭和13年3月  
設立 / 昭和20年3月  
資本金 / 2,300万円  
従業員 / 28名（平成21年1月現在）

全国  
20

ISO 9001